

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) 園芸装飾			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次前期	時間数	120		単位数	4
授業概要	国家資格である園芸装飾技能士2、3級の実技試験ならびに学科試験の受験対策を演習にて実施する。	到達目標	各受検級に合格できる水準まで指導するが、成績優秀者賞（95点以上）の受賞者を一人でも多く輩出できるように努めていく。			
担当教員	田中 みゆ、伊藤 弘充、竹本 春菜、的矢 浩治					
実務経験と授業との関わり	(田中) グリーンコーディネートコース卒業生で園芸店での勤務経験もあり、実際の現場に即した内容を指導することができる。園芸装飾技能士3級では成績優秀者賞を受賞。(伊藤) 園芸装飾技能士1級および職業訓練指導員免許を有し技能検定員を務めていることから、実際の現場に即した内容を指導することができる。(竹本) 園芸装飾技能検定の補佐員を務めている。(的矢) ホームセンターの園芸売場での勤務経験が長く、植物の知識が豊富である。					
テキスト・教材	園芸装飾学科過去問題集					
成績評価方法	実技演習における習熟度と最終回行う全授業の指導内容について理解しているかを問う筆記試験で総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	3級デモンストレーション	植替え	
2	3級デモンストレーション	枠組み	
3	2級デモンストレーション	課題1 枠組み	
4	2級デモンストレーション	課題1 枠組み	
5	3級デモンストレーション	植栽	
6	3級デモンストレーション	植栽	
7	2級デモンストレーション	課題1 植替え	
8	2級デモンストレーション	課題1 取り木	
9	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
10	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
11	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
12	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
13	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
14	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
15	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
16	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
17	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
18	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
19	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
20	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
21	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
22	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
23	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
24	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
25	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
26	2級、3級の学科・実技練習	各級の実技演習指導、学科対策指導	
27	試験直前指導	各級の実技試験を想定した一連の練習指導	
28	試験直前指導	各級の実技試験を想定した一連の練習指導	
29	試験直前指導	各級の実技試験を想定した一連の練習指導	
30	試験直前指導	各級の実技試験を想定した一連の練習指導	
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) フラワー装飾2級		履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習
開講時期	1、2年次前期	時間数	45	単位数	1.5
授業概要	花束、アレンジ、ブーケなどの基本的な制作技術を身に付ける。	到達目標	フローリストの基本的な技術を身に付け、フラワー装飾技能士2級を取得することを目標とする。		
担当教員	非常勤講師				
実務経験と授業との関わり					
テキスト・教材	花材、資材				
成績評価方法	実技試験で評価を行う。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。	

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	アレンジメント①	トライアングラー	
2	アレンジメント②	ファン	
3	アレンジメント③	ホリゾンタル	
4	ブーケ①	キャスケードブーケ	
5	ブーケ②	クレセントブーケ	
6	ブーケ③	キャスケード／クレセントブーケ	
7	花束①	花束Aタイプ	
8	花束②	花束Bタイプ	
9	花束③	Aタイプ／Bタイプ	
10	タイムトライアル①	全パターン	
11	タイムトライアル②	全パターン	
12	タイムトライアル③	全パターン	
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) フラワー装飾3級			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次前期	時間数	90		単位数	3
授業概要	花束、アレンジ、ブートニア、リボンなどの基本的な制作技術を身に付ける。	到達目標	フローリストの基本的な技術を身に付けフラワー装飾技能士3級を取得することを目標とする。			
担当教員	牛久保起佐子					
実務経験と授業との関わり	フラワー装飾技能士1級および職業訓練指導員免許を取得していることから、制作方法や注意点等を的確に指導することができる。					
テキスト・教材						
成績評価方法	授業内で実技試験を行う。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	試験概要説明	道具の使い方／リボン・テーピング	
2	リボンワーク	ブートニア	
3	花束①	花束／ブートニア	
4	花束②	花束／ブートニア	
5	花束③	花束／アレンジメント	
6	花束④	花束／アレンジメント	
7	花束⑤	花束／アレンジメント	
8	タイムトライアル①	全パターン	
9	タイムトライアル②	全パターン	
10	タイムトライアル③	全パターン	
11	実技試験	授業内での実技評価	
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) 造園			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次前期	時間数	120		単位数	4
授業概要	国家検定造園技能士3級、3級合格者においては2級の合格を目指し、合格に必要な実技・専門知識が身に着くまで繰り返し学習する。	到達目標	国家検定造園技能士3級、3級合格者においては2級の合格を目指す。			
担当教員	鈴木 常美、布施 浩一					
実務経験と授業との関わり	(鈴木) 長年個人庭および公園等の公共事業に携わり、公共緑化空間の設計・施工・管理の実務に明るく、造園技能士1級を保持。(布施) 通年30年ほどの現場経験があり、広く造園施工・管理の知識・技術を有し同じく造園技能士1級を保持。よって、造園の基本知識を様々な側面から指導することができる					
テキスト・教材	造園施工必携、3級造園技能検定受験の手引き、造園実技作業の手引き（1、2級）、造園技能検定学科試験問題集、各級関連DVD（いずれも（一社）日本造園組合連合会）等					
成績評価方法	出席状況、受講態度、本試験前の実技模擬試験で総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	造園技能士実技課題①	ガイダンス、部分練習（結び）①	
2	造園技能士実技課題②	部分練習②	
3	造園技能士実技課題③	部分練習③	
4	造園技能士実技課題④	部分練習④	
5	造園技能士学科課題⑤	過去問題、模擬試験	
6	造園技能士実技課題⑥	課題練習⑤	
7	造園技能士実技課題⑦	課題練習⑥	
8	造園技能士実技課題⑧	課題練習⑦	
9	造園技能士実技課題⑨	課題練習⑧	
10	造園技能士実技課題⑩	課題練習⑨	
11	造園技能士実技課題⑪	課題練習⑩	
12	造園技能士実技課題⑫	課題練習⑪	
13	造園技能士実技課題⑬	模擬試験	
14	造園技能士実技課題⑭	課題練習⑫	
15	造園技能士実技課題⑮	課題練習⑬	
他教科との関連 造園概論、造園基礎技術、樹木学Ⅰ・Ⅱ、コース別授業（課題学習）		欠席者に対するペナルティ 実習においては授業内で実習課題。出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考 雨天などにより、内容変更あり。

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) 商品装飾展示3級			履修区分	必修	選択
受講対象	2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	2年次前期	時間数	15		単位数	0.5
授業概要	商品装飾展示技能士3級に合格するための知識と技術を習得する。	到達目標	商品装飾展示技能士3級の合格を目指す。			
担当教員	室伏 英男					
実務経験と授業との関わり						
テキスト・教材	商品装飾展示技能検定ガイドブック学科編（織研出版社）、商品装飾展示技能検定ガイドブック実技編（織研出版社）、VMD用語事典（織研出版社）					
成績評価方法	最終回に実際の試験を用いた実技試験を行い、その得点で評価する。	認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。			

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	実技練習	問題に提示されている実技の練習	
2	総合練習	時間配分、チェック、最終模擬試験	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考 学科試験対策は6～7月の昼休みに行う

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) 日本農業技術検定2級			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次前期	時間数	30		単位数	1
授業概要	日本農業技術検定2級に合格するための知識を学習する。	到達目標	日本農業技術検定2級に合格できるような知識の習得を目指す。			
担当教員	高山 晃					
実務経験と授業との関わり	花き生産に従事しているため、農業に関わる基本的な知識、技術を習得している。よって、農業の基本的な知識を体系立てて指導することができる。					
テキスト・教材	高等学校農業用教科書（野菜または草花）（実教出版）、過去問題プリント					
成績評価方法	途中数回行う試験や最終回に行う模擬試験の得点で評価する。また、実際の試験に合格した場合はその結果も加味する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	検定受験指導	試験の概要、学習の方法、現在の實力を知る（過去検定試験）	
2	検定受験指導	野菜・花卉共通講義	
3	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
4	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
5	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
6	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
7	検定受験指導	まとめと模擬試験	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) 日本農業技術検定3級			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次前期	時間数	30		単位数	1
授業概要	日本農業技術検定3級に合格するための知識を学習する。	到達目標	日本農業技術検定3級に合格できるような知識の習得を目指す。			
担当教員	高山 晃					
実務経験と授業との関わり	花き生産に従事しているため、農業に関わる基本的な知識、技術を習得している。よって、農業の基本的な知識を体系立てて指導することができる。					
テキスト・教材	日本農業技術検定3級テキスト（全国農業高等学校長協会）、高等学校農業用教科書（農業と環境）（実教出版）、過去問題プリント					
成績評価方法	途中数回行う試験や最終回に行う模擬試験の得点で評価する。また、実際の試験に合格した場合はその結果も加味する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	検定受験指導	試験の概要、勉強の進め方 現在の実力を知る（過去検定試験）	
2	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
3	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
4	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
5	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
6	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
7	検定受験指導	まとめと模擬試験	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) NFD			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	日本フラワーデザイナー資格検定（NFD）に合格するための知識、技能を習得する。	到達目標	日本フラワーデザイナー資格検定（NFD）に合格できるような知識、技能の習得を目指す。			
担当教員	牛久保起佐子					
実務経験と授業との関わり	長年、ホテルでのブライダル装飾に携わっていた他、日本フラワーデザイナー協会の講師、職業訓練指導員の免許も持つ。よって、知識や技術はもちろんであるが、的確にわかりやすく指導することができる。					
テキスト・教材	NFDフラワーデザイナー資格検定試験テキスト（日本フラワーデザイナー協会）、花材					
成績評価方法	最終回に行う実技試験の得点で評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	検定受験指導	3級 並行 植生的 丸い花束 2級 並行 植生的 モダン装飾的花束	
2	検定受験指導	3級 モダン装飾的ブーケ 2級 構造的 交差	
3	検定受験指導	3級 トライアングュラー 丸い花束 2級 非対称形のブーケ	
4	検定受験指導	3級 共同形態 モダン装飾的ブーケ 2級 構造的 モダン装飾的花束	
5	検定受験指導	3級 並行 装飾的 トライアングュラー 2級 並行 植生的 交差	
6	検定受験指導	3級 共同形態 丸い花束 モダン装飾的ブーケ 2級 交差 モダン装飾的花束 非対称形のブーケ	
7	検定受験指導	3級 共同形態 丸い花束 モダン装飾的ブーケ 2級 交差 モダン装飾的花束 非対称形のブーケ	実技試験
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考 指導順序は入れ替わることがある。

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) 色彩検定2級			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	色彩検定3級の内容に加え、色彩検定2級に準拠した事項を理解することを目的とする。	到達目標	文部科学省後援の色彩検定2級色彩コーディネーター資格の取得を目指す。			
担当教員	江副 好美					
実務経験と授業との関わり	カラーコンサルティングやディレクション業務の実務経験を有し、大学・専門学校での講義、企業研修や団体セミナーにおいても多数の指導実績がある。共著に『配色の教科書 - 歴史上の学者・アーティストに学ぶ「美しい配色」のしくみ』、『色で巡る日本と世界』などがあり、実務と理論を融合した実践的な授業を展開する。					
テキスト・教材	文部科学省後援「色彩検定2級公式テキスト」（色彩検定協会）、過去問題プリント					
成績評価方法	模擬試験の得点および本試験の結果を総合して評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	検定受験指導	色のユニバーサルデザイン	
2	検定受験指導	光と色、色彩心理	
3	検定受験指導	色の表示、慣用色名	
4	検定受験指導	色彩調和、配色イメージ	
5	検定受験指導	ビジュアル、ファッション	
6	検定受験指導	インテリア、景観色彩	
7	検定受験指導	模擬試験、総復習	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 カラーコーディネート、 （資格取得）色彩検定3級		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) 色彩検定3級			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	色彩検定3級の内容に準拠し、色彩に関する基本的な事項を理解することを目的とする。	到達目標	文部科学省後援の色彩検定3級色彩コーディネーター資格の取得を目指す。			
担当教員	江副 好美					
実務経験と授業との関わり	カラーコンサルティングやディレクション業務の実務経験を有し、大学・専門学校での講義、企業研修や団体セミナーにおいても多数の指導実績がある。共著に『配色の教科書 - 歴史上の学者・アーティストに学ぶ「美しい配色」のしくみ』、『色で巡る日本と世界』などがあり、実務と理論を融合した実践的な授業を展開する。					
テキスト・教材	文部科学省後援「色彩検定3級公式テキスト」（色彩検定協会）、過去問題プリント					
成績評価方法	模擬試験の得点および本試験の結果を総合して評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	検定受験指導	色のはたらき、色はなぜ見えるのか？	
2	検定受験指導	眼のしくみ、照明の色と見え方、混色	
3	検定受験指導	色の分類と三属性、PCCS	
4	検定受験指導	色の心理的効果、色の視覚効果	
5	検定受験指導	色彩調和、配色イメージ	
6	検定受験指導	ファッション、インテリア、慣用色名	
7	検定受験指導	模擬試験、総復習	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 カラーコーディネート、 （資格取得）色彩検定2級		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) POP			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	POP広告クリエイター資格取得を目標とする。また、販売促進POP広告に必要な知識、作成スキルを習得し、就業に即応できる技能を養成する。	到達目標	基本をマスターした時点で、社会人として求められているPOP広告のスキルの習得と、POP広告クリエイター認定試験合格を目標とする。			
担当教員	鐵倉 れい子					
実務経験と授業との関わり	長年POP広告作成業務に携わり、日本POPサミット協会の副会長を務めるなど、POP作成に関する経験が豊富である。よって、実際に店舗で使用される実例をあげながら、わかりやすく指導することができる。					
テキスト・教材	テキスト、マーカー一式、筆記用具、講師作成資料					
成績評価方法	授業内でPOP広告制作の習熟度および販売促進の理解度を問う学科および実技の模擬試験を行い、その得点で評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ試験の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	POP広告制作のための基本技術の学習	POP書体/丸ペンひらがな・カタカナ・漢字・英字・数字の実技を習得 POP書体/角ペンひらがな・カタカナ・漢字・英字・数字の実技を習得	
2	POP広告制作のための基本技術の学習	POP書体/角ペンひらがな・カタカナ・漢字・英字・数字の実技を習得 文字の装飾の方法を習得	
3	POP広告制作のための基本技術の学習 手書きPOP広告	POP広告のカラーコンディショニング POP広告のレイアウト・イラストの活かし方 POP広告の文案の考え方 POPプライスカード、ショーカードの制	
4	手描きPOP広告制作	プライスカード、ショーカードの制作	
5	手描きPOP広告制作	ポスター、企業問題の制作	
6	実技模擬試験	資格取得模擬試験実施による技能の確認（後期試験に充当）	
7	POP広告の必要性と効果、販売促進、店舗の陳列など知識の学習 学科模擬試験	POPとは何か？POP広告の目的、役割などを理解する 販売促進、店舗陳列などを理解する 学科模擬試験（後期試験に充当）	
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、欠席時のPOP広告作品の宿題や課題提出等は総合評価に反映する。また、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考 進度によって指導順序、内容に変更があることがある。

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) 日本農業技術検定1級			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	日本農業技術検定1級に合格するための知識を学習する。	到達目標	日本農業技術検定1級に合格できるような知識の習得を目指す。			
担当教員	高山 晃					
実務経験と授業との関わり	花き生産に従事しているため、農業に関わる基本的な知識、技術を習得している。よって、農業の基本的な知識を体系立てて指導することができる。					
テキスト・教材	高等学校農業用教科書（野菜または草花）（実教出版）、過去問題プリント					
成績評価方法	途中数回行う試験や最終回に行う模擬試験の得点で評価する。また、実際の試験に合格した場合はその結果も加味する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	検定受験指導	試験の概要、学習の方法、現在の實力を知る（過去検定試験）	
2	検定受験指導	野菜・花卉共通講義	
3	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
4	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
5	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
6	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
7	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
8	検定受験指導	まとめと模擬試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) 日本農業技術検定2級			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次後期	時間数	30		単位数	1
授業概要	日本農業技術検定2級に合格するための知識を学習する。	到達目標	日本農業技術検定2級に合格できるような知識の習得を目指す。			
担当教員	高山 晃					
実務経験と授業との関わり	花き生産に従事しているため、農業に関わる基本的な知識、技術を習得している。よって、農業の基本的な知識を体系立てて指導することができる。					
テキスト・教材	高等学校農業用教科書（野菜または草花）（実教出版）、過去問題プリント					
成績評価方法	途中数回行う試験や最終回に行う模擬試験の得点で評価する。また、実際の試験に合格した場合はその結果も加味する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	検定受験指導	試験の概要、学習の方法、現在の實力を知る（過去検定試験）	
2	検定受験指導	野菜・花卉共通講義	
3	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
4	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
5	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
6	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
7	検定受験指導	講義および演習（範囲別問題、過去検定試験）	
8	検定受験指導	まとめと模擬試験	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) リテールマーケティング（販売士）検定3級		履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習
見学					
開講時期	1、2年次後期	時間数	30		単位数
1					
授業概要	リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格するための知識を習得する。	到達目標	リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できるような知識の習得を目指す。		
担当教員	内村 敬子				
実務経験と授業との関わり	アパレル業界の勤務経験だけでなく、自身でも小売業に対するコンサルティングを行うなど小売業に対する造詣が深く、検定の指導経験もある。よって、経験からの小売業のポイントを押さえながら検定を指導することができる。				
テキスト・教材	テキスト、プリント				
成績評価方法	各回の課題と、模擬試験の点数で評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。	

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	オリエンテーション ①小売業の類型	販売士とは 第1章 流通における小売業の基本 第2章 組織形態別小売業の基本 I	
2	①小売業の類型	第2章 組織形態別小売業の基本 II 第3章 店舗形態別小売業の基本的役割 第4章 商業集積の基本 I	
3	①小売業の類型 ②マーチャンダイジング	第4章 商業集積の基本 II 第1章 商品の基本 第2章 MDの基本	
4	②マーチャンダイジング	第3章 商品計画の基本 第4章 販売計画および仕入計画などの基本 第5章 価格設定の基本 第6章 在庫管理の基本 I	
5	②マーチャンダイジング ③ストアオペレーション	第6章 在庫管理の基本 II 第7章 販売管理の基本 第1章 ストアオペレーションの基本	
6	③ストアオペレーション ④マーケティング1	第2章 包装技術の基本 第3章 フォースプレイの基本 I 第3章 フォースプレイの基本 II 第1章 小売業のマーケティングの基本 I	
7	④マーケティング1 ⑤販売・経営管理	第1章 小売業のマーケティングの基本 II 第2章 顧客満足経営の基本 第3章 商圏の設定と出店の基本 第4章 リージョナルプロモーション 予備試験講義	
8	学習指導（予備試験） ④マーケティング2 受験上の注意	予備試験 第4章 リージョナルプロモーション 第5章 顧客志向型売場づくりの基本 受験上の注意	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
他教科との関連		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考

2025年度 シラバス（授業細目表）

科 目 名	(資格取得) 造園			履修区分	必修	選択
受講対象	1、2年生	授業形態	講義	実習	演習	見学
開講時期	1、2年次前期	時間数	120		単位数	4
授業概要	国家検定造園技能士2、3級合格者は1級実技課題を題材に将来の合格を目指し初級、上級に分かれて知識と技術を学習する。国家検定造園技能士3級受検者は、3級の合格を目指す。	到達目標	国家検定造園技能士2、3級合格者は1級実技課題を題材に将来の合格を目指し、初級、上級に分かれて知識と技術を学習する。国家検定造園技能士3級受検者は、3級の合格を目指す。			
担当教員	鈴木 常美、布施 浩一					
実務経験と授業との関わり	(鈴木) 長年個人庭および公園等の公共事業に携わり、公共緑化空間の設計・施工・管理の実務に明るく、造園技能士1級を保持。(布施) 通年30年ほどの現場経験があり、広く造園施工・管理の知識・技術を有し同じく造園技能士1級を保持。よって、造園の基本知識を様々な側面から指導することができる					
テキスト・教材	造園施工必携、3級造園技能検定受験の手引き、造園実技作業の手引き(1、2級)、造園技能検定学科試験問題集、各級関連DVD(いずれも(一社)日本造園組合連合会)等					
成績評価方法	出席状況、受講態度、本試験前の実技模擬試験で総合的に評価する。		認定基準	出席時数が全授業時数の3分の2以上、かつ評価の得点が60点以上で単位認定となる。		

授 業 計 画			
回	指導項目	指導内容	備考
1	小庭園づくり (1.2.3級実技課題学習)	竹垣・つくばい・延段・植栽等	
2	小庭園づくり (1.2.3級実技課題学習)	竹垣・つくばい・延段・植栽等	
3	小庭園づくり (1.2.3級実技課題学習)	竹垣・つくばい・延段・植栽等	
4	小庭園づくり (1.2.3級実技課題学習)	竹垣・つくばい・延段・植栽等	
5	小庭園づくり (1.2.3級実技課題学習)	竹垣・つくばい・延段・植栽等	
6	小庭園づくり (1.2.3級実技課題学習)	竹垣・つくばい・延段・植栽等	
7	小庭園づくり (1.2.3級実技課題学習)	竹垣・つくばい・延段・植栽等	
8	小庭園づくり (1.2.3級実技課題学習)	竹垣・つくばい・延段・植栽等	
9	小庭園づくり (1.2.3級実技課題学習)	竹垣・つくばい・延段・植栽等	
10	小庭園づくり (1.2.3級実技課題学習)	竹垣・つくばい・延段・植栽等	
11	小庭園づくり (1.2.3級実技課題学習)	竹垣・つくばい・延段・植栽等	
12			
13			
14			
15			
他教科との関連 造園概論、造園基礎技術、樹木学Ⅰ・Ⅱ、造園施工Ⅰ・Ⅱ、造園管理Ⅰ・Ⅱ、課題学習		欠席者に対するペナルティ 特にはないが、出席時数が3分の2に満たない場合は評価対象外となる。	備考 雨天などにより、内容変更あり。